

公立病院の財務診断

国際商経学部 浦山 剛史



キーワード

公立病院、自治体病院、財務診断、効率性

研究概要

公立病院の財務状況（コロナ禍前）をみてみると、経常損失を計上した公立病院の割合は62.8%で、また累積欠損金を抱える事業の割合は73.0%もあり（総務省の「令和元年度 地方公営企業年鑑」）、この財務状況の悪化に医師不足も相まって、廃止や民間譲渡、診療所化などが進み、地域医療の重要な担い手である公立病院が減少しています。このような状況を受けて、総務省は公立病院に対し改革プランの策定・実行を求め、公立病院はそれに基づき経営改善に努めていますが、全体として大きな改善が見られないのが現状です。

前述のように、63%の病院が経常損失となっていますが、逆に言えば37%の病院は黒字を達成しているわけです。そこで、私の研究はそのような黒字を達成できている病院に共通する要因について、病院の基礎データ、財務データ、改革プランなどのデータをもとに分析しています。

アピールポイント

設置している診療科、病院の規模、環境が似ているけど黒字を達成していたり、財務改善ができていたりする病院が、もしかしたら他にあるかもしれません。一度、客観的なデータによって自病院の姿（財務指標、効率性、順位）を把握して、経営改善に活用してみませんか。

応用分野

国立病院機構や地方独立行政法人化した病院、指定管理者制度を導入した病院についても、財務状況や効率性のチェックを行うことができます。